

● Pierre-André Kuchen (ピエール・アンドレ・クーヘン)



スイス ベルン州ケアチーム副所長

2001年からベルン州国民保護政策部門が担当する緊急時心理サポートの開発に関わる。2007年からはケアチームの管理職として、2人の同僚とともに緊急事態に巻き込まれた人々に心理的・心理社会的サポートを提供する160人の強力なチームを率いている。ケアチーム全員の訓練のあり方や緊急時に出動する団体（警察、救急、消防）の訓練の組織化について責任を負う、スイスの各所のケアチームの専属スーパーバイザー兼トレーナーである。「緊急時補助的心理支援全国ネットワーク」の国家委員会常任委員として、スイスにおける訓練内容や介入基準の策定にも関わっている。

● 笹川真紀子 (ささがわ まきこ)



総務省消防庁メンタルサポートチームメンバー／東京消防庁惨事ストレス対策専門指導員／
NPO法人日本消防ピアカウンセラー協会副理事長／精神保健福祉士

災害救援者（主に消防職員）の惨事ストレス対策に携わっている。日本における従来の惨事ストレス対策は、専門家がアセスメントをするという形であったが、消防職員同士（ピア）が仲間に提供する支援と共感力のすばらしさに気づき、ピアサポートシステムの普及に努めている。

● 栗野 拳至 (くわの たかし)



大津市消防局 警防課 救急高度化推進室 主査

1997年大津市消防局に入局。消防隊員、救急隊員を経て、2003年に救急救命士の資格を取得。気管挿管・薬剤投与認定救急救命士として15年にわたり救急現場における救護活動に従事。その間、2011年3月11日に発生した東日本大震災において緊急消防援助隊滋賀県大隊の救急部隊長として被災地での救急搬送業務に従事したほか、2019年5月に大津市内で発生した園児を含む多数傷病者事故をはじめ、大小様々な救急事故に対応した経験を有する。

● 三上 民喜 (みかみ たみき)



龍谷大学大学院社会学研究科博士後期課程／元湖南広域消防局長

龍谷大学との間で実施した心的外傷後ストレス障害（PTSD）に関する共同研究が契機となり、退職後、大学院で消防職員の惨事ストレス対策を研究することになった。現在、出勤頻度の高い救急隊員を対象として、現地で生の声を聴き、消防特有の課題や惨事ストレスへの対応について研究している。これまでの調査を通じて、身近な人々によるサポートが惨事ストレスへの対応において、特に重要であることが明らかになっている。

● 暁 素代 (なわて もとよ)



大和大学保健医療学部 看護学科 教授／博士(学術)公衆衛生看護学, 健康心理学, 思春期保健
保健師, 看護師, 保育士／奈良県出身

龍谷大学短期大学部社会福祉科卒業後、奈良県内の公立保育所に入職した後、保健師職として、奈良県内の保健所にて公衆衛生業務に従事。2004年10月に発生した新潟県中越地震では、派遣保健師として、被災地（小千谷市）での保健師による全戸訪問業務に従事。2009年、NPO法人「なら思春期研究会」を設立、現在も理事に就任中。2011年、保健師基礎教育に従事するため、奈良県職員を退職し、大学教員となる。

● 諫山 憲司 (いさやま けんじ)



明治国際医療大学 保健医療学部 救急救命学科 教授／附属防災救急救助研究所 副所長／
神戸大学大学院医学研究科 外科系講座 災害・救急医学分野 客員准教授／博士(医学, 救急救命学)／
救急救命士, 社会福祉士, 僧侶

20年間、消防官として勤務、大小様々な緊急・災害現場の最前線で実務にあたり、現在は、救急救命学の教育指導とともに、生態系を活用した防災・減災（Eco-DRR）、中米（キューバ等）を参考に災害医療やヘルスケアへの活用、日本版のコミュニティパラメディンや消防チャプレン等の調査・研究を通じ、持続的かつ災害レジリエントなコミュニティづくりに取り組んでいる。

● 児玉 龍治 (こだま りゅうじ)



龍谷大学文学部 臨床心理学科 教授／臨床心理士／公認心理師

専門は臨床心理学です。これまで実践活動としては、不登校児支援、ひきこもり支援、スクールカウンセリング、うつ病患者への支援などに携わってきました。仏教（宗教）とカウンセリングとの接点をライフワークとして研究していきたいと考えています。また、働く人たちのメンタルヘルス対策にも取り組んでいきたいと考えています。